

令和3年度 第1回 地方独立行政法人新小山市市民病院評価委員会 会議要録

日 時：令和3年7月7日（水） 13:00～15:00

場 所：小山市役所7階 委員会室

出席者：塚田錦治委員長、朝野春美委員、高田純子委員、岸野康之委員、石島政己委員

【新小山市市民病院】

島田和幸理事長、折笠清美看護部長、坂田普事務部長、関彰事務副部長兼総務課長、
島田守医事課長、大塚勝美経理課長、関悟人事課長

【事務局（保健福祉部健康増進課地域医療推進係）】

福原円健康増進課長、関口律子地域医療推進係長、鈴木香奈子主任

会議経過

1. 開会

発言者	内 容
2. 委員・関係者自己紹介	
3. 議事（塚田委員長進行）	
	（1）令和3年度評価委員会審議事項及び評価スケジュール等について
事務局	事務局説明【資料1－2参照】
	質問意見等なし
	（2）（3）令和2年度事業報告書及び財務諸表等について
新小山市市民病院	事業報告及び財務諸表説明【資料3～4参照】
	質問意見等なし
	（4）第2期中期目標期間の業務実績について
新小山市市民病院	第2期中期目標期間業務実績報告【資料6参照】
委員	入院診療単価が上がった理由を教えてください。
新小山市市民病院	おそらく複合的な要因ではあるが、コロナのことも診療報酬に関係していると思われる。 急性期疾患の手術件数も上がってきていることなどが影響し、当院が診療単価の高い医療に移行してきているということだと思う。 来年以降もさらに磨きをかけ、この状況が続いてほしいと思っている。
委員	他の病院は、コロナの影響で、経営が悪化しているという報道をよく聞くが、新小山市市民病院は黒字になっている。これは、コロナの補助金の影響とこのことであるが、他の病院もこの補助金はもらっているのか。
新小山市市民病院	昨年度は、第1四半期は国の補助金が不透明で、このままだと大赤字になると、その時期にはそのような報道がよくされたと思うが、秋頃に、コロナの患者を受け入れている病院へは国から補助金が入ったので、当院も赤字の部分を補助金が補ってくれたような形になった。
	（5）第2期中期目標期間における積立金の処理について
委員長	説明のあった、留保の考え方について、何かご意見はないか。
委員	内部留保の観点から、平成28年度より人事院勧告に基づくベアや賞与増額を採用していないとあるので、今後はベアや賞与を上げるなど検討していただきたい

	い。
委員長	全般に関していかがか。
委員	夜間休日急患診療所の受診者数がものすごく減っている理由を教えてください。
委員長	私が管理者になっているので、説明すると、コロナの影響であることは間違いがないが、例年であれば年末年始にインフルエンザの患者が毎日100人ほど来院するが、令和2年度は0人であった。マスクや手洗いなどの感染防止対策が徹底されたため、子供の感染症が圧倒的に少なくなった。また、患者の受診控えも影響していると思う。これが、本来あるべき姿なのか、検証していく必要がある。
委員	地域の中で、新小山市民病院の役割を十分に果たしていただいていることがよくわかった。今後コロナの補助金がもらえなくなった時に、どのような経営をしていくか、準備をしていってほしい。
委員長	おそらく補助金に関しては、今の市民病院の状況を継続していけば問題ないと思うが、今後は獲得した質を落とさない、質の維持が重要になってくる。優秀な医師や看護師が居た場合、そこへ依存していると、もし居なくなってしまった時に、同じ医療を提供することができなくなってしまうので、幸いなことに研修指定病院にもなられたので、うまく新陳代謝をしながら質の維持を心掛けていただきたい。 今回新小山市民病院のポテンシャルが県内でも認知されたと思う。今回は中等症の患者を受け入れたが、今後はそれ以上のものを求められると思うので、そういったことも含めた準備が必要になると思うので頑張っていたきたい。
	(5) その他
事務局	今後の提出資料について説明
委員長	PCR検査などで、医師会のスタッフと市民病院のスタッフが協力して作業をしているが、市民病院の歴史が始まって以来、初めてのことであると思う。それが非常によくかみ合って地域医療へ貢献できている。今後も頑張っていたきたい。
	議事終了

4. 閉会

以上